



AIDA Misako

## 多様な価値観が共存する ダイバーシティ研究環境の 実現にむけて

### 国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラムの推進

事業実施責任者  
広島大学 学長特命補佐(研究人材育成担当) / 特任教授

相田 美砂子

2017(平成29)年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択された「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム(CAPWR)」は、広島大学が代表機関、マツダ株式会社、デルタ工業株式会社、一般財団法人国際開発センターが共同実施機関として、また、多くのメンバー機関に参画していただき、実施してきました。事業期間は6年間であり、本報告書は、最終年度である2022(令和4)年度の活動状況をまとめたものです。

本事業は、第4次男女共同参画基本計画(2015(平成27)年12月25日決定)に掲げられた目標達成に貢献することを目指して取組を開始しました。次の4つのタスクフォースを形成し、大学、ものづくり企業、国際協カシンクタンク、および多くのメンバー機関が協力して様々な取組を進めてきました。

- ① ダイバーシティ研究環境整備強化
- ② 女性研究者の研究力向上・リーダー育成
- ③ 女性研究者の積極採用・上位職登用
- ④ ダイバーシティ研究環境実現モデル開発

本事業の開始から6年が経ち、これらの取組の実施が、それぞれの機関の中での新たな動きにつながってきています。それぞれの機関には、それぞれ独自の課題があり、それらを直視することがダイバーシティ環境を実現するための第一歩、ということが認識されるようになってきました。

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からの国内外での活動制限も、ようやく新しいフェーズに入りそうになってきました。コロナ禍のため、思ったような活動ができない期間もありましたが、この事業の実施機関・メンバー機関の中で、ノウハウの共有を図ることもできました。この間に培った経験と対処法は、今後も様々な場面で役に立てることができるだろうと思います。

第5次男女共同参画基本計画が、2020(令和2)年12月25日に定められました。そこでは、2003年に掲げられた目標(2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度となるよう期待する)が、いまだに達成されていないという危機感が強調され、確実に達成されるように社会の様々な側面での計画が定められています。

本事業は2023年3月で補助事業としては終了いたしますが、今後も、単に、掲げられた数値目標を達成すればよいのではなく、本当の意味で多様性に富む社会の実現を目指した活動を、私たちは続けていきます。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

2023(令和5)年3月



マツダ株式会社 R&D技術管理本部  
副本部長

## 藤家 豊

当社は、昨年11月に中期経営計画のアップデートと2030年に向けた経営の基本方針を発表しました。地球と社会に責任を持って事業活動を行っていくことを企業として重要な使命と考え、「ひと中心」の思想のもと、心も身体も活性化されるものづくり、つながりづくり、ひとづくりをおこない、人々の日常に動くことの感動を創造し、誰もが生き活きと暮らす「愉しさ」と「生きる喜び」を届けていくことを目指してまいります。

このような考えのもと、2017年より「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム」に参画させていただき、この間、女性活躍推進プロジェクト、女性研究者との共同研究などを実施して、様々な可能性を持つ従業員が、お互いの違いを認め合い、理解し、尊重したうえで、『ありのままの自分で私らしくイキイキ』と活躍し、存分に持てる力を発揮できる、明るく働きやすい職場環境の実現を進めてまいりました。

共創・共生による「人と共に創る」という考えに基づき、この6年間で得た資産やネットワークを最大限に活用して、更なる女性の活躍に向けての阻害要因を把握・是正し、ジェンダーに限らず多様性についての取り組みを加速していきたいと考えています。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



デルタ工業株式会社 開発部  
部長

## 小倉 由美

当プログラムも最終年度を迎えました。このプログラムへの参加を通じて弊社では、社内での啓蒙活動や研究・開発活動に取り組んでまいりましたが、弊社のダイバーシティ環境整備は、到達地点への目標がクリアかつ高くなり、まだまだ緒に就いたばかりであると感じております。

そのような中でも広島大学大学院医系科学研究科の先生方との共同研究活動の成果も昨年3月に広島大学霞キャンパスにおいて記者発表を行うことができました。弊社の女性研究員達がデータ解析の一翼を担ってきた研究アイテムが一定の成果を得ることができ、これからの道のりに灯りをともしてくれております。これらの小さな灯りが消えることなく、大きな松明になり、この先も弊社のダイバーシティ環境実現に向けての道標であり続けられるよう、引き続き希望を持ち、推進してまいりたいと思います。

関係者各位におかれましては、誠にお世話になり有難うございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



一般財団法人国際開発センター  
代表理事

## 渡辺 道雄

私たちはODA（政府開発援助）の一環である発展途上国との技術協力にコンサルタントとして従事し世界各地で活動を行っています。活動分野は教育、保健などの社会開発、農業、貿易投資などの経済開発、交通・都市開発、事業評価など多岐にわたり、伝統的に女性の活動が活発で、研究員に占める女性の割合はほぼ半分でした。ただ、管理職に占める女性の割合が少ないという課題を抱えていました。

そのような問題意識から本プログラムに参加しましたが、海外や他機関の取り組み事例、研修・セミナーなどから学び、社内での協議を経て、女性管理職の割合を大きく増大することができました。また、過半数代表者も女性となりました。その結果、社内の管理職会議などの場で従来よりも多様な意見が聞かれるなど、よい成果が出てきているように思われます。本プログラムは本年度末をもって終了しますが、ダイバーシティとは単に女性だけに限らずもっと広い意味を持っています。今後は、そうした面にも留意し、ダイバーシティのさらなる向上に向けて取り組んでいきたいと考えています。